

毎年11月上旬に弘前市の弘果弘前中央青果で「創作文字絵りんご研究発表会」が開催され、ここで発表されたりんごが競りにかけられる。出品するのは弘前市下湯口の岩崎智里さん(47)だ。

れも手掛けていなかつた文字絵入りリンゴを思い付き、5年の試作期間を経て、開発にこぎつけた。リンゴの表面に張り付けるシールの素材選びに苦労したという。開発当時に特許を取得している。

5万トン時代へ

28

文字絵 リンゴ



海外の市場で高い評価

りリンク。「スタークジヤンボ」という特大品種の全面に絵などが入ったものでガラスケース入り

だ。リンゴだけで17万円の値が付いたとか。

れているし、贈答用としても人気が高い。40年以上続いている一種の加工文化ともいえる文字絵入りリンゴをこれからも大事にしていきたい。

の2品種だけである。国内向けにはバブル崩壊後、需要が停滞してきてることや、労力不足と一般リンゴの栽培とのバランスを考えて、今後縮小も検討している。

しかし、中国、香港、台湾など輸出先市場では文字入りリンゴは高く

弘前市の佐藤袋店でも
絵入りリングを作成して
いる。こちらはコンピュ
ーターで画像処理した図
柄をシールに張り付ける
独自の方法で、色に濃淡
のついた絵画や人物画を
再現し、特にフランスと
の交流で成果を上げてい
る。

評価されている。何といつても高級日本リンゴの

(県りんご輸出協会事務
局長 深澤守)

「ノゴは、
博夫さん
年）が開
つ、体が弱
規模拡大
干支の動物や招き猫、七
福神など、だんだんと絵
をえた複雑なものへと
発展していった。写真に
あるのは究極の文字絵入
、当時だ

2004年の干支・申(さる)の絵柄が入つたり
シゴ。高値で競り落とされた=2003年10月

評価されている。何といつても高級日本リンゴの

(県りんご輸出協会事務
局長 深澤守)

何とか収
、当時だ
あるのは究極の文字絵入
発展していった。写真に